

# 令和7年度 富島高等学校（全日制） 学校評価

<b>スローガン「全力 TOMIKO！」</b> ～ 地域社会と連携し、新時代を形成するために必要な学校教育の実践 ～	【学校関係者評価のポイント】 ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は、指標等をもとにした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。	
<b>校訓 教育目標</b> 己の個性を伸ばす <b>自立</b> の心を育て、 信頼と協調により <b>友愛</b> を深め、 心豊かな生活を目指して <b>創造</b> 力を伸ばし、 知・徳・体の調和のとれた人材を育成する。	<b>重点目標</b> 志を持つ生徒育成のために (1) 「頭」を鍛え、伸ばす(個に応じた学力向上と進路実現) (2) 「心」を鍛え、育てる(心の教育の推進と充実) (3) 「体」を鍛え、伸ばす(体の育成と食育・健康教育の推進)	<b>具体的取組 (キーワード)</b> (1) 確かな学力を育む教育の充実 (2) 多様な人材を育む教育の推進 (3) 学習環境の整備 (4) 読書の推進

重点目標	評価項目	具体的方策 又は 具体的指標	自己 評価	成果及び改善策	学 校 関 係 者 評 価	評価・具体的意見
<b>（一）「頭」を鍛え、伸ばす （個に応じた学力の向上と進路の実現）</b>	①学習環境の整備と授業環境の支援を図る	○学ぶ意欲や授業態度を育成する ○手帳の活用 ○生徒の能力を伸ばす指導と学習の遅れを考慮した指導の推進を図る	<b>B</b>	○各月に学年による授業参観期間を設け、授業の様子や生徒の取り組みなど参観することができた、良い刺激を受けた。 ○考査前などは、持ち帰り指導を行い学習に取り組む環境を整えることができた。また、授業準備が確実にできるように、授業2分前に予鈴を鳴らしている。授業に臨む姿勢を作る効果もあるので今後も継続したい。 ○学業不振の生徒に対して、テスト前集会を開き、教科担任からテスト勉強の仕方など丁寧な個別指導を行ってもらい、学習支援をすることができた。また、教育相談部と連携を取り、個に応じた支援体制を整えることができた。 ○手帳の活用については、特に3年生が進路決定までの日程調整などを記入しており、よく活用している場面がみられた。 ○進路目標が明確である生徒は自宅でも自主的に学習に取り組む傾向にあるため、進路指導部とも連携して学力向上に向けて今後も取り組みたい。	<b>B</b>	○学習環境・授業環境については、支援体制そのものは整っていると感じられる。学習に向かう姿勢づくりが定着してきている点は、高く評価できる。また、手帳の活用は、自己管理能力や見通しをもつ力の育成につながっていると思う。 ○学業不振生徒への対応としては、個人別に小さな目標設定を行い、達成可能な短期目標を手帳に記入し、その達成度を教員と共有するなど、特に1・2年生における手帳の活用を工夫することで、学習の遅れを考慮した指導にもつながるのではないかと。 ○相互に職員が行う授業参観の実施や持ち帰り指導、予鈴の授業開始2分前取り組みなど、授業を落ち着いた雰囲気が進められるような工夫が良いと思う。また、進路指導部・教育相談部など各部門間との連携がとれており、生徒個々の目標に対するサポート体制の充実を感じる。さらに、生徒の授業に対する入り方や意識が良い方向を向くよう先生方の工夫を色々とお願ひしたい。 ○手帳の活用について、今後の人生にも役に立つ良い取り組みだ。予鈴は今後も続けて欲しい。
	②授業力の向上を図る	○校内研修・校外研修へ積極的に参加し、授業力の向上を図る	<b>B</b>	○研究授業や学習指導研究会、県教育委員会が主催する研修などに多くの先生方が参加し、授業の改善や質の向上を図ることができた。また、国語や数学と商業の教科では発表の力や商業の計算の内容など教科横断的な学習を行うことができた。	<b>B</b>	○日ごろから先生方が研鑽に励み、授業力向上に向けて努力されている点は高く評価できる。 ○研究会や研修会の参加により、指導力向上の取り組みを積極的に図り、さらに生徒の学習意欲を上げていただきたい。 ○研修で学びを大いに教育現場に活かして欲しい。自己研鑽に活かして欲しい。
	③専門教育の充実	○専門教育を充実させ、ビジネス教育や家庭教育の推進を図る ○ICTを活用した学習の充実を図る ○産学官連携・高大連携による専門的知識・技術の向上を図る	<b>B</b>	<b>【商業科】</b> ○学校運営協議会が発端となり、門川町との授業連携(心の杜活性化)が始まった。その他にも外部との実践的・体験的な学習を行い、日頃の学びを活かす場面が増えている。 ○Google アプリ等を活用した授業展開を積極的に行っており、学びの個別最適化が実現できていると思われる。 ○宮崎大学との連携も始まり、専門学校との授業連携も5年目をむかえている。	<b>B</b>	○「心の杜」活性化の取組において、先生方のご指導のもと御尽力いただき、ありがとうございます。地域に目を向けた実践的な授業が行われることで、生徒の成長につながるとともに、町役場との相互の相乗効果が生まれることを期待している。 また、生活文化科では、各コースの特色を生かした専門的な学びや外部講師による指導が充実しており、生徒の専門性や進路意識の向上につながっていると考えます。 ○外部講師を招いての授業や外部との実践的・体験的な学習を積極的に取り入れていただくことで、生徒たちも今後の進路や就職に対する視野が広がると思う。また、宮崎大学・専門学校との授業連携においても、将来の目標構築に対する幅を広げてくれると期待している。知らないよりも知っておいた方がいい知識は多々あると思うので、この取り組みは効果があると考えます。また、個別最適な学びを実現できるよう、Google アプリ等を使って工夫されているようで心強い。 ○新しい取り組みに向かう姿勢が素晴らしい。良い経験になったと思う。これからも様々な分野と連携し学びを深めて欲しい。
			<b>A</b>	<b>【生活文化科】</b> ○2・3年生は、各コースで特色のある授業を行っており、その学びを文化祭や地域イベントで発表できた。1年生は、家庭科全般を学びながら「生活産業基礎」の科目で生活関連産業について学び進路意識を高めることができた。 ○ICT活用に関して研究授業や部会夏期講座等で研修した学びを授業で活用していきたい。 ○コースごとで外部講師招聘(被服：サザンビューティ専門学校、フード：マナビヤミヤザキアカデミー、保育：宮崎学園短期大学)を実施し、より専門の学びを深めることができた。		

④資格取得の推進	○資格取得を推進し、検定学習を通して、チャレンジ精神、問題解決力、学びに向かう力を醸成する ○生徒の理解度に対応した指導体制の確立を図る	<b>B</b> <b>【商業科】</b> ○検定試験に対する学習指導強化するために商業科部活動を中心に特別講座を開講した。検定取得の必要性を説き、学習を必要とする生徒への手立てができたと感じている。 ○高度資格に挑戦する生徒に対しての学習指導が不十分であるため個別指導や少人数指導の機会を今後作りたい。	<b>B</b>	○卒業生が勤務する弊社の立場から申し上げますと、資格取得は社会人となってからも大きな力となり、確実に学び続ける力の育成につながっていると感じている。今後とも、生徒のチャレンジ精神や学びに向かう力が着実に育まれることを期待している。 ○検定受験や資格を取得するといった、具体的目標を持ちながら日々生活することが、充実した学校生活をもたらしてくれると思いますので、検定・資格の取得を一人でも多くの生徒に意識づけていただけるとありがたい。 ○問題解決力の向上にどのような教育がされたのか。検定取得の必要性が説かれていて良いと思う。
⑤キャリア教育の推進	○各教科の授業のみならず、全教育活動を通じたキャリア教育を推進し、生徒の学ぶ意欲の喚起と学力の向上につなげる	<b>B</b> ○キャリア教育の全体計画については、毎年学校要覧にも掲載しているが、内容の見直しをこの数年行っていない。管理職から、校務分掌・学年に対してそれぞれの立場で全体計画についての確認するように指示された。来年に向けて内容の変更を行っていききたい。	<b>B</b>	○キャリア教育の取り組みは、生徒が将来進むべき道を考える際に大きな指標となるものだと考える。来年度はキャリア教育の充実をさらに図っていただけるものと期待している。 ○内容の見直しを行って欲しい。
⑥継続して就業できる社会人の育成	○校内外のガイダンスやインターンシップやボランティア活動の充実を図り、継続して就業する心構えを持たせる	<b>B</b> ○本年度も校内外の進路ガイダンスや数多く実施してきた。就業前企業見学等を実施することで、ミスマッチをできるだけ防ぐように努めた。3年生になって進路を決めるのではなく、2年生までに進路を決める指導をすることで、心構えを早期にできるようにしたい。	<b>B</b>	○あわせて、地元就職することのメリットを伝え、地元企業の魅力についても理解を深めていただきたい。 ○インターンシップは企業との連携がカギだと思われる。相互に十分情報共有していただきニーズの解離が無きよう慎重な対応が必要である。 ○早めの進路指導と継続したフォローで心構えができると思う。
⑦ICT教育の推進	○ICT活用を推進し、オンライン教育など新しい学びを推進する ○ICT環境を整備する	<b>B</b> ○ICT活用については、今年度から様々な機種端末を使用している生徒が増えており、各教科の実態に合わせて活用することができている。 ○生徒の1人1台端末(iPad)については、授業での活用が昨年より利用している状況が見受けられる。今後は自宅学習でも活用出来るような手段を各教科などで発信していく必要がある。	<b>B</b>	○ICTに関しては、端末の有無や性能の差による格差みたいなものが発生しないか心配なので、先生も生徒も効果的活用方法について、さらに研究いただけると幸いである。また、ICT機器の活用は先生それぞれにバラツキが無いよう、同じ教科の若手先生がベテラン先生に対して指導するなど、相互に刺激し合うことも必要ではないか。 ○ICT活用の内容や度合いがわかりにくい。自宅学習で活用できるよう早期に取り組んで欲しい。

重点目標	評価項目	具体的方策 又は 具体的指標	自己 評価	成果及び改善策	学 校 関係者 評 価	評価・具体的意見
(2) 「心」を鍛え、 育てる(心の教育の推進と充実)	①基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>○規則正しい学校生活を送り、自立心・忍耐力の育成に努める</li> <li>○集会等で、挨拶、礼儀、マナーの徹底、大切さを伝える機会を多く持つ</li> <li>○各種専門委員会の活用の推進を図る</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校全体や生徒の様子を見極めながら、機会を見て集会等を開き、学校生活の大切さを訴えた。常時指導が理想であり、全職員の共通理解と生徒自身に富高生としての誇りを持たせたい。</li> <li>○生徒会総務、交通委員会や代議委員会等と連携して、朝のあいさつ運動やヘルメット着用推進活動を12月に実施した。しかし、生徒による主体的な活動が十分ではない。今後も、生徒会総務と連携して、様々な行事や活動を生徒主体で運営できるように促していきたい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○運動会の時は生徒が主体となって応援、運営を行っていて活気があった。ほかの分野でも生徒が主体となって活動に取り組むことで、自立心や責任感のさらなる育成が期待される。</li> <li>○やらされ感を感じないような生徒への促しを先生方のテクニックでお願いしたい。</li> </ul>
	②持続可能な社会の形成に参画できる教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○変化を前向きに捉え、人間らしく豊かに生活する社会を形成しようとする人材を育成する</li> <li>○学校行事やボランティア活動等を積極的に推進し、地域の活性化に貢献する</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○4月の歓迎遠足は伊勢ヶ浜で実施した。生徒会総務が中心となり、レクレーション等を計画し、全校生徒が楽しめる充実した内容となった。クラスマッチでは、サッカーやバレーボール、eスポーツを競技として設定し、生徒の個性を多方面から引き出す方策を実践することが出来た。また、昨年大幅に校則の見直しを行い、本年度より運用している。人権や社会の変化に合わせた内容に見直しを行い、現在のところ、大きな乱れ等は発生していない。今後も、生徒会総務と話し合いを行いながら見直しを随時進めていきたい。</li> <li>○「ボランティアの富島」と言っているほど、多くの生徒が積極的にボランティアに参加して、地域を支える活動をした。これらの経験を通して、自身の成長や自身につながっている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校行事やボランティア活動において、生徒会を中心とした主体的な取組が進められ、社会の形成に参画しようとする姿勢が養われている点は高く評価できる。特に富島高校では、社会と積極的に交流する機会が多く設けられており、地域と生徒との良好な関係が築かれていると感じている。</li> <li>○校則の大幅見直しによる影響はさほどないとのことで、安心した。現代の時流にあったルール作りはこれからもさらに必要になるかと思う。</li> <li>○富島高校の生徒はボランティア活動へ積極的に参加する印象がある。地域の祭りやイベントには必ずといっていいほど富島の生徒が活動している。担当の先生方もできるだけ地域との連携に関して積極的に取り組まれることを期待している。</li> <li>○「ボランティアの富島」という声がたくさん聞こえてきますように。ボランティアを通して学ぶことも多いと思う。頑張ってもらいたい。</li> </ul>
	③命を大切にす教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○あらゆる場面・機会をとらえて、安全指導等を実施し、自他の命を大切にす教育を推進する</li> <li>○外部の団体や個人等に依頼し、命の大切さを再認識させる機会をつくる</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○警察と連携して、ヘルメット着用推進活動を実施した(12/1~3 8~10)。生徒会総務、交通安全委員会、代議委員会を中心に、ヘルメット着用を促す啓発活動を行い、ヘルメット着用100%を目指して取り組んでいる。一方、自転車の施錠率の低下やステッカーなしの自転車も目立ってきており、盗難防止を徹底する観点からも不十分な結果となっている。今後も生徒の危機管理意識を高めていきたい。</li> <li>○薬物乱用防止居室と情報モラル教室を実施した(6/4)。</li> <li>今年度も、スマホの使用方で、友人関係のトラブルに発展する事態が発生している。今後も様々な場面で啓発活動を行い未然防止に努めたい。</li> <li>○1学期は、プロフェッショナル心理カウンセラーの本田 佑太郎 氏に来校していただき、ネットやスマホ依存、SNSに関連した問題についてわかりやすく解説していただいた。</li> <li>○2学期は、シンガーソングライターの真北 聖子 氏の公演を体育館で行った。この講演をとおして、障害者への理解を深めるきっかけとなり、生徒・職員からは好評であった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ヘルメット着用、スマホ使用方法に関しては、具体的な取り組みが上げられている一方で、改善策について検討の余地があると思う。</li> <li>○生徒たちの安心安全な学校生活を考えると交通指導はその入り口であり、とても大切な部分ですので、防災とあわせてさらなる危機意識や我が毎に捉える仕組みづくりが必要か考える。また、外部団体や個人の講師を招いて、多くの情報を生徒に提供していただくと、先生方から受ける情報とはまた違う気づきや学びを効果的に受けとめてくれると思う。さらなる充実をお願いしたい。</li> <li>○ヘルメットの似合う富島高校生になって欲しい。</li> <li>○好評だった講演は生徒の心に響いたことでしょう。素晴らしい人選をありがとうございます。</li> </ul>
	④安全管理の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>○危機管理、防災対策に組織的に取り組み、学校の安全管理の徹底を図るとともに、生徒の危機回避能力を育成する</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○避難訓練(地震・津波)では、避難後の人数掌握のために災害用掲示板を学校HP内に作成し、従来の掌握方法とは別な手段を実践した。また、2回目の避難訓練には地域の方々にも参加してもらい、学校が防災の拠点であることを再認識した。備蓄品については、物品や個数を確認し整理することができている。</li> <li>○防災講話を2回実施し、職員、生徒共に防災・減災に対する意識向上を図った。</li> <li>○SPS サポーター・アドバイザー10名選出し、本校の活動に率先して取り組んだ。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地震を昨今日本全国で発生している地震などの災害を目の当たりにすると、防災意識も高まる。この機をうまく活用して、危機意識の共有をさらに進めていただけるとありがたい。また、時間が経った後に、その意識を高いまま保てるかが課題と考える。</li> <li>○日頃からの心構えが大切だと思う。工夫された訓練が良いと思う。</li> </ul>

※ A : 十分達成

B : 概ね達成

C : 検討の余地あり

D : 不十分

	⑤スクールリーダーの育成	○学校行事やホームルーム活動等を通してスクールリーダーの育成に努める ○体育大会や文化祭等の学校行事が生徒主体で動かせるように、生徒の組織を整えて動かす	B	○学科の連携やクラスリーダー、部活動のリーダー育成のために、定期的に指導をする機会が必要である。3年生のリーダーをメンターとして、グループで学校活性化のために活動できる方策を考えたい。 ○体育大会と文化祭が2週連続で実施され、その準備が心配されたが、団長やリーダー、クラス委員長らが中心となり、観客を魅了するすばらしい内容となった。会場のスマホ使用マナーや服装容儀面も改善が見られた。来年度も、発表する側、観る側が一体となり、文化委員を主体的に動かし、出演者、観客が一体となった文化祭を目指したい。	B	○体育大会や文化祭等の学校行事を通して、生徒主体で行事を運営する力が着実に育成されており、今後は3年生をメンターとした組織的な取組により、次世代のスクールリーダー育成が一層進むことを期待したい。 ○リーダーシップに関しては、部活動や様々な行事・イベントを通して、実際経験しないと得られない能力であると思う。今後様々な行事を通して、多くの生徒がリーダー育成の場面に出会えることを望む。 ○3年生をメンターとして、学校活性化のために活動できる方策の早期実現を期待している。 ○素晴らしい行事にするための先生方や生徒たちの協力した準備や当日のパフォーマンスに感動した。
	⑥特別支援教育体制の充実	○教育相談体制を充実させるとともに、関係機関と連携して特別支援教育体制の充実を図る	A	○生徒及び職員からの相談事や教育相談室に登校する生徒を毎月集計し、学年会・養護教諭・管理職に報告すると共に必要な生徒への支援を行い、ケースによっては保護者との面談を実施した。 ○スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、専門医、日向市と連携し支援の必要な生徒の面談や支援を行った。	A	○継続的な支援が行われており、生徒一人ひとりの状況に応じた丁寧な対応が実践されている点は高く評価できる。 ○生徒及び職員からの相談事を各部門で共有し、スクールソーシャルワーカーと連携しながら、学校生活やこれからの進路など、悩み多い生徒たちをサポートする体制づくりや支援体制の構築がされているなど感じた。 ○連携した支援体制の充実は生徒や保護者の安心につながると思う。 ○具体的な面談や支援後の成果はありましたか？
	⑦豊かな心の育成	○読書や体験活動を通して豊かな心の育成に努める	A	○「朝読書定着による一日のルーティン確立」を重点目標として、職員の共通理解をもって取り組んだ。12月の生徒アンケートの結果、ルーティン確立できたと回答した割合は94.7%と、昨年度より更に上がり、非常に高かった。また、全学年の図書館終礼を実施し、読書の推進を図り、昨年度より、貸出冊数も増加した。	A	○朝読書を中心とした取組が学校全体に定着し、読書を通じた生活リズムの確立や心の成長につながっており、アンケート結果や貸出冊数の増加からもその成果がうかがえるのは評価できる。 ○朝読書を定着させたことは素晴らしい。ルーティン確立割合約95%は素晴らしい取り組みと考えている。 ○生徒相互に有益な本などの情報共有を行うと、さらに広がりを見せるのではないかと。 ○素晴らしい取り組みと成果だと思ふ。継続して欲しい。
③「体」を鍛え、伸ばす(体の育成と食育・健康教育の推進)	①健康教育や安全管理の充実	○生徒の個々の状況に合わせた心身の健康教育や安全管理の充実を図る ○生涯にわたる健康の保持・増進のための教育の推進を図る	B	○健康講話は、自分の生き方・在り方について考えを深める良い機会となった。生徒の実態に応じた講話で、生徒の参考になったと思われる。また、講話後などの担任によるフォローで、自分の身体・心に対する関心がより高まった。 ○保健室との連携をはじめ、日々の会話や観察により、生徒の小さな変化にも気づくことができている。また、教育相談部との連携も、充実してきた。	B	○生徒の体調管理や精神的なケアも含めて、保健室、クラスや外部の支援体制の連携が重要であると思う。 ○講話後のフォローは良い取り組みだと思ふ。
	②豊かな人間関係を育む	○部活動や学校行事等を通して自己の鍛錬と個性の伸長を図り、リーダーの育成に取り組むとともに豊かな人間関係を育む	B	○部活動の活性化は本校の活性化に必要な要素である。体育系や文化系を問わず、部活動に熱心に取り組む、学校生活を充実させることが、心豊かな人間性の育成につながる。部活動の成果も少しずつ出てきて、結果として表れてきている。一方、部活動に加入せず、時間を持て余し問題行動につながっている例もある。部活動間の横の連携を強化しながら、職員も生徒も生き生きと活動できる部活動を目指していきたい。 ○部活動活性化のための手立て(施設面や指導方法等)についても積極的に検討したい。	B	○部活動に加入していない生徒についても、それぞれの得意分野を生かせる役割を与えることで、学校生活への関わりが深まり、問題行動の未然防止につながる可能性があるかもしれない。 ○全国的にも通用する部活動を展開されている。このことは先生方、外部コーチも含め生徒のことを考え献身的に指導いただいているためだと頭が下がる思いである。 ○先生方の部活動に向けた時間も制限がある中、課題も多くあるでしょうが、リーダー育成や成功体験の獲得などの面から部活動活性化を推進いただけるとありがたい。 ○素晴らしい成績を残している。富島高校の名前がどんどん有名になっていくことは誇らしい。
	③感染症に負けない健康習慣を実践する	○5類感染症移行後もその場の感染リスクに応じた適切な感染症防止に努める意識や態度を育てる	B	○登校前の自宅での健康状態チェック、家庭での健康観察をお願いすることで、体調の変化にも意識を持たせることができ、健康管理ができるように習慣化されてきている。また、周囲の健康状況や感染症の状況にも関心を持つようになり、予防的行動ができるようになった。 ○個人の判断で、マスク着用や手指消毒が、定着してきた。室内換気についても、実践できるようになってきている。	B	○コロナ5類感染症移行後の学校のあり方として、意識付けが出来ていると感じた。今後はインフル対策など3年生をフォローする体制の充実を期待している。 ○体調管理も大切である。ご指導に感謝する。

※ A : 十分達成

B : 概ね達成

C : 検討の余地あり

D : 不十分